

詩編 第30編 11節

「あなたは私のために、嘆きを踊りに変えてくださいました。あなたは私の荒布を解き、喜びを私に着せてくださいました。」

嘆きが踊りに変わるなどあるのでしょうか。嘆くなかで、足元から湧き上がるように踊りが始まることなどあるのでしょうか。とても想像し難いことではないのでしょうか。嘆くときは全身が嘆きで覆われ逃れようがないかのように思ってしまうでしょう。しかし、起こっているのです。嘆きを踊りに、とあるからです。

嘆く私が、あなたを見ています。嘆いてはいますが、嘆きの囚人にはなっていません。嘆きのなかで、あなたを見ています。嘆きの直中で、それを超えて、見るべきお方を見ているのです。それでわかります。あなたは私のために、嘆きを踊りに変えてくださいました。もうすでに踊っているのです。嘆く私が踊っているのです。私が、自分で嘆きを踊りに変えたものではありません。あなたが変わってくださったのです。

あなたの御手で、私の嘆きの衣、荒れ狂う衣、荒布を解き放ってくださったのです。あなたが、私に喜びの衣を着せてくださいました。もうすでに、私は喜びの衣を着ています。嘆く者が解放され、新しい衣、喜びの衣で踊らざるを得ません。これを実現する主なる神を讃える踊りを踊ります。

2022年9月22日